

# やないづ 議会だより

第159号  
令和元年(2019)  
6月定例会報告  
発行日：令和元年8月22日  
福島県柳津町議会  
(0241)42-2390  
編集：議会広報編集委員会



6月定例会  
6月12日～6月14日

委員会現地調査	2
6月定例会 議案審議	4
一般質問 6人の議員が町政を問う!	6
議会行政視察	12
中学生議会	14
新人議員紹介	18



行政視察（北海道鹿追町役場）

# 令和元年度 各委員会現地調査

5月10日に、各委員会に分かれて町内の現地調査を実施しました。総務文教常任委員4名、産業厚生常任委員4名が参加し、町内外9箇所について調査を行い、6月定例議会において調査報告を行いました。



### \* 議会要望 \*

- ・ 進入路の日陰になりそうなところも左右幅5メートルぐらい立木伐採を検討いただきたい。
- ・ 入り口隅切りを広くし一旦停止しても再発進できるような平地をなるべくとること。



### 会津坂下消防署 新庁舎



### \* 議会意見 \*

- ・ 災害時の対応を想定した施設であり、女性仮眠室を備え2班交代で女性も勤務しており、大変参考になる。

### \* 議会要望 \*

- ・ アトリ工館の内部が暗い感じであるので、道路側の窓を活用する等の工夫を。
- ・ 建物の外壁の改修や宿泊する部屋の改修が必要と思われる。今後の活用の方向性を明確にして適切な改修を。

### アトリ工館 改修現場



## 現地調査

### 総務文教常任委員会

シモン入口進入路改良工事進捗状況

会津坂下消防署新庁舎視察

アトリ工館改修現場及び利用状況

安久津防火水槽設置状況

孫太郎松（説明看板改修状況）

### 産業厚生常任委員会

檀ノ浦大平団地造成工事現場

海洋センター業務委託内容の確認

旧西山中学校再編計画の進捗状況等

グローバルピッグファーム(株)肥育農場



団地造成  
工事現場

#### \* 議会要望 \*

- ・住民の不便を解消するために早期の完成と、早目に道路の舗装をしてほしい。



旧西山中学校  
再編計画

#### \* 議会要望 \*

- ・地域住民とのコンセンサスを進めてほしい。



安久津  
防火水槽

#### \* 議会要望 \*

- ・中学校の駐車場の箇所に設置してあることから、緊急時に車などがマンホールの上に駐車して消火の妨げにならないように措置を講じること。
- ・マンホールのふたを、今後、赤ベコ等のキャラクターで統一してみてはどうか。



グローバル  
ピッグファーム

#### \* 議会要望 \*

- ・堆肥が外気に触れる場所があったので、臭気対策と水質検査を数値化して議会に報告をお願いした。
- ・柳津町のイベントへの参加をお願いした。

6月定例会審議議案 ー主な議案ー

令和元年第2回定例会が、6月12日から6月14日までの3日間の会期で行われました。

今回の定例会では、令和元年度補正予算や工事請負契約の締結など13議案、報告案件2件、議員提出議案2件が審議され、原案どおり可決・同意されました。

補正予算  
プレミアム付  
商品券補助金

〔一般会計補正予算〕

プレミアム付商品券補助金として社会福祉総務費を1,100万円増額補正。  
対象は住民税非課税者と2016年4月2日から今年の9月30日までの間に生まれた子供1,600名を予定。

人  
事

〔固定資産評価審査委員会委員の選任〕

一ノ瀬信夫氏が令和元年6月30日をもって任期満了となることに伴い、同氏を再任することに同意。

工事契約  
旧西山中学校改修工事請負契約を締結  
町営住宅敷地造成工事請負契約を変更

〔工事請負契約の締結〕

旧西山中学校改修工事

〔契約金額〕

6億2,150万円

〔契約先〕

滝谷建設工業株式会社

代表取締役 田中智仁

旧西山中学校を改修し、支所地区に点在する公共施設を集約化する。

〔工事請負契約の変更〕

町営住宅建設工事敷地造成工事について、工事内容に変更が生じたため契約金額を199万5,840円増額し、1億2,403万5,840円とする。

《変更の主な内容》

当初想定したよりも浅く岩盤が出たため増額となったほか、附帯工（水道管、消火栓の移設、マンホール高さ調整など）により増額。

〔5月20日臨時会〕

工事契約  
町営住宅建設工事  
請負契約を締結

〔工事請負契約の締結〕

町営住宅建設工事

〔契約金額〕

7億1,500万円

〔契約先〕

滝谷建設工業株式会社

代表取締役 田中智仁

定住促進住宅の建設（RC造、4階建、20戸）。

財産取得  
スクールバス  
を購入

〔スクールバスの購入〕

〔購入の対象〕

スクールバス（29人乗）

〔契約金額〕

979万7,844円

〔契約先〕

株式会社平和総合企業

代表取締役 杉原 稔

〔契約の方法〕

指名競争入札

● 6月定例会補正予算

		6月補正後	補正額	
一	般 会 計	45億8,256万3千円	2,256万3千円	
特 別 会 計	土 地 取 得	3万3千円	-	
	国 保	事業勘定	4億9,059万6千円	△540万4千円
		施設勘定	8,576万8千円	226万8千円
	後 期 高 齢	5,079万7千円	△3千円	
	介 護 保 険	5億4,255万9千円	△144万1千円	
	簡 易 水 道	1億5,181万5千円	△658万5千円	
	町 営 ス キ ー 場	963万円	-	
	農 業 集 落 排 水	9,070万円	△490万円	
	下 水 道	7,255万2千円	55万2千円	
	簡 易 排 水	210万円	-	
林 業 集 落 排 水	280万円	-		
合 計	60億8,191万3千円	705万円		

※本定例会の補正予算は、4月に行われた人事異動による給料及び職員手当が主な内容。

陳情 陳情2件を採択し、国へ意見書を提出

No. (所管委員会)	件名	陳情者	審査結果
陳情第4号 (総務文教)	教職員の長時間過密労働の解消に向けた意見書提出をを求める陳情	福島県教職員組合 両沼支部長 横田 恵一	一部採択
【陳情内容】 教職員の長時間過密労働の解消のため、教職員定数の改善を行うことを要望する意見書。			
陳情第5号 (総務文教)	「令和2年度及び復興・創生期間後も国の『被災児童生徒就学支援等事業』の継続と、被災児童生徒の十分な就学支援を求める意見書」の提出を求める陳情	福島県教職員組合 中央執行委員長 角田 政志 外1	採択
【陳情内容】 東日本大震災で被災をし経済的理由により就学等が困難な子どもに対して、学用品等の援助や通学支援、奨学金奨励等の就学支援を行う「被災児童生徒就学支援等事業」について、令和2年度及び復興・創生期間後以降も全額国庫で支援を継続できるよう、予算確保を国へ要望する意見書。			

こんなことを決めました 一審議一覧一

【5月20日臨時会】

議案第52号	専決処分承認	原案承認
議案第53号	専決処分承認	原案承認
議案第54号	工事請負契約締結	原案可決
議案第55号	パソコン機器購入	原案可決
議案第56号	スクールバス購入	原案可決

【6月定例会】

議案第57号	専決処分承認（一般会計補正予算）	原案承認
議案第58号	柳津町介護保険条例の一部改正	原案可決
議案第59号	一般会計補正予算	原案可決
議案第60号	国民健康保険特別会計補正予算	原案可決
議案第61号	後期高齢者医療特別会計補正予算	原案可決
議案第62号	介護保険特別会計補正予算	原案可決
議案第63号	簡易水道事業特別会計補正予算	原案可決
議案第64号	農業集落排水事業特別会計補正予算	原案可決
議案第65号	下水道事業特別会計補正予算	原案可決
議案第66号	固定資産評価審査委員会委員の選任	原案同意
議案第67号	除雪機の購入	原案可決
議案第68号	工事請負契約締結	原案可決
議案第69号	工事請負契約締結	原案可決

議員提出 議案第1号	教職員の長時間過密労働の解消に向けた意見書の提出	原案可決
議員提出 議案第2号	令和2年度及び復興・創生期間後も国の「被災児童生徒就学支援等事業」の継続と、被災児童生徒の十分な就学支援を求める意見書の提出	原案可決

【7月22日臨時会】

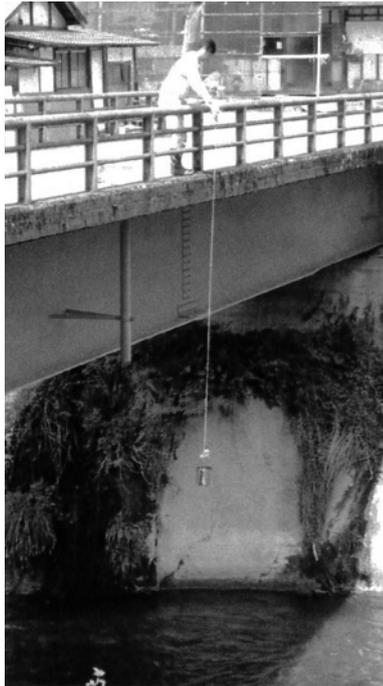
議案第70号	一般会計補正予算	原案可決
議案第71号	簡易水道事業特別会計補正予算	原案可決



2番 磯目泰彦議員

○安心、安全な水の供給

安心、安全な水の供給



河川水質検査採水の様子

Q

水道水の安全性を一層高め、今後も町民が安心しておいしく飲める水道水を安定的に供給していただくためには、水源から給水栓に至る統合的な水質管理を実現することは重要であると考えます。そこで、次の2点について町の考えを伺う。

1、公共用水域水質検査事業における河川の水質検査の実施状況と今後の町の考えについて。  
2、上水道の給水管、配水管の鉛管対策について。  
以上、2点について伺う。

A

(町長) 1、河川の水質検査の実施状況は、水質汚濁防止法の規定に基づき、水質汚濁状況を監視する

ために行う水質測定計画を毎年策定し、町独自で検査の生活環境項目は、9地点を四半期ごとに年4回5項目について検査し、健康項目は、2地点を半期ごと年2回実施、8項目について検査をしている。検査結果は、広報お知らせ版、並びに福島県水質年報で公表している。今後も引き続き、町民の安心安全のため、町独自で水質検査を実施し公表をしていきたい。

2、当町では、区域拡張や改修等で鉛管を使用した実績はなく、水道メーターに関しては8年に1回、計量法により交換をしているため、現在管理分における鉛管または鉛を使用した機器の使用はない。なお、各家庭の給水設備については、建築年数が古いものは現在も使用をされている可能性があるが、町で毎月行っている水質検査の結果では、

鉛の検査項目を含め水質基準を超える検査結果は出ていない。水道水に関しては安全であると考えている。

かつて鉢山があった銀山川の川上や麻生大橋から竜蔵庵、いわゆる水道水の取り口付近までの区間においては、私はもつと水質検査の箇所を増やすか、変更する要望をしていきたいが、どのような考えで今後水質検査をされるかお聞きしたい。

Q

かつて鉢山があった銀山川の川上や麻生大橋から竜蔵庵、いわゆる水道水の取り口付近までの区間においては、私はもつと水質検査の箇所を増やすか、変更する要望をしていきたいが、どのような考えで今後水質検査をされるかお聞きしたい。

A

(町民課長) もつと箇所を増やすべきではないかということだが、町民の生活や企業の進出などによって状況は変わってきているので、見直しをしていくべきと考えている。

Q

町管理分には鉛管または鉛を使用した機器の使用はないという答弁だが、個人管理分となるとメーターから宅内になる。

例えば、鉛管や鉛管の機器機材が民間の部分で使用された場合、それが確認された場合、町としてはどのように考えているか。

A

(建設課長) メーターから先の宅内にある配

管部分は、個人の財産になるので、給水設備の布設替えを促すような対応をしていきたい。

Q

鉛管に対しての補助、助成ということではないか。

A

(建設課長) 県・国の補助金は今のところないが、町では、当課建設班で住まいづくり支援事業補助金を出している。給排水管工事も対象となっているので、活用していただけたらと思う。

Q

鉛管の使用がない建物での水質検査では、当然鉛は出ない。しかし、築年数により、使っている可能性がある家屋があるという判断であれば、古い家屋を何件かピックアップして個別に水質検査をしてみることが必要と思うが、その考えはあるか。

A

(建設課長) どのくらい鉛管を使用している可能性の家屋があるのか、また経費はどのくらいかかるのか、負担割合はどうするのかという課題があるので、今後内部で協議していきたい。



5番 田崎信二議員

## ○消防活動に関する町の考え方 及び対応等

### 火災警報器の助成を！ 消防団員確保対策は？

**Q** ①当町における火災等の発生経過の中で、各地区での施設整備や機器の設置状況はどのような状況か伺う。

②消防団員不足は全国的に深刻化している中、柳津町では団員確保等どのような取り組みをしているのか伺う。

**A** (町長) ①柳津町の各地区での施設の整備は、防火水槽が第1分団34基、第2分団28基、第3分団22基、第4分団23基、第5分団20基を設置している。

現在、防火水槽は、計画的に設置している。今年度は、地区の要望による設計委託を2基分、設置工事を柳ヶ丘地区、石坂地区の2基を予算措置している。

また、機器設置状況は、小型動力ポンプ36台、ポンプ自動車2台、普通積載車4台、軽積載車9台配備をして、今後も消防団と協議をしながら計画的に整備をしていきたい。

②消防団員の確保については、今後も区長さん、消防団に対して広報等を通じながら団員の確保に努めていきたい。

い。

なお、柳津町消防団設置条例では、町に勤務している者も加入できるので、町内の企業に対しても、柳津町消防団協力事業所表示証を交付するなど、消防団への加入促進の働きかけを行っていきたい。併せて、消防団OB、広域消防OB等の協力も、近隣町村の運用状況等を調査しながら、現役消防団とのお互いの有効な活動につながるよう、町消防団、区長等と連絡をしながら今後も継続して協議を進めていきたい。

**Q** ①火災警報器設置について、新築住宅は2006年より、既存の住宅は2011年から義務化されている。町が、平成29年11月に全世帯を対象にした調査では、設置率が78.7%で、未設置率が21.3%になる。

10年前に、消防団を経由して火災警報器を高年齢世帯に配布したが、耐用年数が、電池が10年、本体も、実際には電池と同じく10年ぐらいと言われている。町で助成してはどうか。

普通の単体の警報器1つ約1,500円程度なので、全世帯に1個ずつ配布しても190万円ぐらい。そうすると

自動的に100%設置になるし、今まで設置している方については、2個か3個か住宅に設置になるようになる。

**A** (総務課長) 議員おた

だしのとおり、1家庭に1個という形で考えている。寝室、台所、階段という形で最低3個は必要になると思っ

**Q** ②団員確保に当たっては、町でも、条例の改正等を行ったり、対策を検討しているが、年々減少傾向にある。原因は本当に何なのか。ただ単に少子高齢化で済ませていいのか。

消防団は、町民の生命、身体及び財産を守る重要な役割だと言われており、その観点から今後の具体策について伺いたい。

**A** (総務課長) 消防団の

約7割が会社員である。少子高齢化、また、人が少なくなっている状況だが、消防団の加入促進のために、年2回は町長が町内の企業に

挨拶回りをして消防団員の加入をお願いしている。また、年1回だが、消防団長、会津地方振興局の職員、町消防の担当者で商工会、また企業を訪問している。会社も、社会貢献という形で、消防団の活動には賃金等、手当等も減額しない形で協力いただいている。

併せて、消防団のOB、広域消防のOB等のノウハウ、あと、少なくなった分の人数については消防団OB等の協力をいただき、有効に消防活動を行っていきたくと考えている。



消防団防災訓練の様子



1番 岩淵清幸議員

学校教育の方針は？



新教育長としての学校教育に対する熱意や方針について伺う。

1、教育委員会の理想像とはどういうものだと考えているか。

2、学校教育のあるべき姿をどう考えているか。また、一人の人間が成長していく上で義務教育の9年間という時間はどういう位置づけにあると思っているか。

3、教育委員会の事務は、学校教育のほか生涯学習・社会教育の振興や芸術文化の振興・文化財の保護、さらにスポーツの振興などが考えられるが、これらについての基本的な考え方を伺う。

4、現在の町教育委員会の所掌事務にはないが、町出身者の高校生や専門学校生、大学生に、将来の柳津町を担ってもらえるような働きかけを行う必要を感じているが、どういう方法があるかと考えているか。



(教育長) 1、本町の教育委員会が年齢、性別、職業などに偏りがなく、保護者も含まれ、望ましい構成になっているので、この教

育委員会をしっかりと機能させることが教育長の大きな責任の一つと考えている。

特に、教育委員会の役割である教育行政を推進するために、地域の抱える課題をしっかりと捉え意思決定を的確に行うことを、教育委員、そして教育委員会事務局である学校教育アドバイザーを加えた教育課職員とともに推進できる教育委員会を理想としている。

2、学校は、子供たち一人一人に確かな学力をつけ、豊かな心やたくましい体を育てるところなので、授業を中心として教育活動を充実させることがまず必要だと考えている。

子供たちが学校生活を送る中で一番多く時間を使っている授業で、わかる・できる体験ができなければ、知・徳・体をバランスよく育てられるはずがない。幸い、町の3校ともに子供たちの学力や体力、心身の健康に関する課題を的確に把握しているので、ICT機器の活用を含め、授業の充実・改善に取り組むことができるように支援していく。

義務教育の9年間は、社会的な自立に向け、一人の人間として、家族や地域社会の一員として、そして一国民として

必要な基礎的・基本的な知識や技能、地域や国に誇りを持つ考え方を身に付ける期間であり、柳津町の豊かな自然や文化的な環境の中で、同年代を中心とする多くの人たちがかわることでこれらが身に付くものと考えている。

3、直接担当している中央公民館・生涯学習班、美術館の職員を中心に今後も振興していく。(※生涯学習からスポーツ振興まで一通り答弁しています)

4、教育委員会単独の取り組みでは不十分で他の課・班との連携が重要だと考えている。

町出身の高校生や専門学校生、大学生への働きかけに発展するものとして、各学校で行われているキャリア教育が

それに当たるものと考えている。会津柳津学園中学校で中学2年生が町内での職場体験を授業に取り入れて、町内で農業や工業、商業、観光業などさまざまな職業に従事する人たちに接し、直接町で働く方々の思い等を聞くことにより、柳津町のよさを再確認できる授業を取り入れており、町への思いが深まることにより将来につながる可能性が期待できるものと考えている。

高校や専門学校、大学に在籍している生徒や学生については、同じくキャリア教育の一環として、進路の選択や受験に臨んだ体験などを中学生や小学生に話す機会を模索することも、町のよさを改めて認識してもらえよう機会になるのではないかと考えている。



神田教育長(手前左)の答弁の様子

○教育長の基本方針



3番 伊藤 純議員

## ○町内各地区の水不足の現況

### 水不足の現状と対策は？

**Q** 1、大成沢地区の水源を利用してきている地区について各対策を講じてきているが、現在の進捗状況はどうなっているのか伺う。

**A** 2、飯谷（麻生）地区の水不足について、どの程度情報を把握しているのか。また、生活用水に関しては、現在不便を感じていないということだが、今現在、水不足のために消火栓が使用できないとのこと。緊急事態が発生した場合、どのように対応するのか具体的に考えているのか伺う。

**Q** 3、その他、各地区の現況について、現時点で水不足の情報が入っているのか伺う。

**A** （町長） 1、昨年、大成沢地区と芋小屋地区、胃中地区に給水している大成沢水源で水不足が発生し、水源の水不足解消のために膜ろ過器を取り付け、現在は水不足が発生することなく稼働している。

現在の進捗状況は、水源の候補地の選定が終わり、水量及び水質等の水源調査を発注した。

2、5月1日に麻生地区に送配水を行っているポンプの故障によって家庭及び配水池への送水ができなくなり、同程度のポンプと交換を行い、生活用水に不便なく使用できるまで回復している。今後の復旧は、今回の6月議会定例会において補正予算を計上させていたのだが、ポンプ及び施設改良を行いお盆前には復旧させたい。

また、緊急事態発生時の対応は、地区の40トン級の防火水槽が2基整備されている。それでも不足する場合には、只見川からくみ上げることで対応できると考えている。

3、各地区の現況について、今のところ水不足の情報が入ってきていない。しかし、今後渇水期に入るので、節水を呼びかけるとともに各地区に



麻生水源ポンプ操作盤

情報提供を求め、水道管理に不測の事態が発生しないよう対応していきたい。

**Q** 大成沢の地区の水源は、膜ろ過器を取り付けて、現在では水不足が発生していないということだが、今年度は、節水対策は必要なのか。



大成沢膜ろ過装置

**A** （建設課長） 現在ともともある水源からの水を利用してはいる状況であり、仮設で引いている水が現在も使える状況にはあるので、万が一、源泉の水が減ってきた場合にはその仮設の水で対応できると考えている。

**Q** 麻生地区は、消火栓が水不足で使えない状態と聞いている。

緊急時の対応について、町だけの考えではなくて、住民の方たちと事前に打ち合わせしていく必要があるのではないかと。緊急事態に合わせ、どんな対応をしていくのか伺う。

**A** （総務課長） 打ち合わせについては、区長を初め事情は説明しており、6月補正が終わったらすぐにポンプ等の購入を考えているので、それで何とか間に合わせたいと考えている。

**Q** 各地区の水不足について現在情報は入っていないとのことだが、今年度は水不足が深刻になるという予想を持って考えていかなければならないのではないか。不測の事態に対応できるように、日々天候も注意しながら各地の確かな情報入手して、スピード感をもって対応していかねければならないと思うが、建設課長の見解を伺う。

**A** （建設課長） 水不足については、議員言われるとおり常に気象状況、天候などやまた地区からの情報、あと中央管理システムがあるので、そういった情報収集を行いながら監視して、現場に



7番 菊地 正議員

## ○ JR会津柳津駅周辺の環境整備

### 柳津駅のトイレと 駐輪場の整備を！

**Q** 第一回定例会において、只見線の利活用を図るため「県や近隣町村と連携した路線の景観及び駅周辺の整備を進めてまいります」との説明があった。現在、JR会津柳津駅周辺の環境整備は、どのような計画とスケジュールで進んでいるのか伺う。

**A** (町長) JR会津柳津駅周辺の環境整備については、今年度は駅トイレの実施設計を行っていく。7月にJR東日本仙台支社の担当者が現地調査を行うこととなっており、調査終了後に実施設計を進めていくスケジュールとなっている。

また、町が以前よりJRと協議を進めていた駅舎の利活用については、協議の中で、JR側から耐震性の面などから現状のまま貸すことは難しいとの話があったが、課題解決に向け今後も継続して協議をしていく考えである。

平成29年度に県において只見線利活用計画が策定され、その中で奥会津景観整備プロジェクトとして、沿線の風景を阻害している杉や雑木など

を伐採しビュースポットを整備するとされている。そしてまた、町としては、本年度県が行う滝谷駅周辺のビューポイント整備と併せてフォトスポットの整備を進める予定であり、杉などの支障木の伐採に係る立木所有者の確認を現在進めている。

今後も、計画的に県や近隣市町村と連携して、JR只見線沿線の環境整備を図ってきたい。

**Q** 観光客を温かくお迎えできるように、トイレが第一条件ではないかと思うが、トイレの改修に対する考えを伺う。

**A** (地域振興課長) 柳津駅は奥会津の玄関口で、インバウンドによって外国人のお客さんも、徐々にではあるが増えているので、トイレについても、しっかりとしたい。きれいなものを造っていくということ、本年度実施設計で来年度、国の補助金を活用して建築のほうをしていきたい。

**Q** 道路拡張のために駐輪場がなくなっている。以前は10台も置き場所が

あった。駐輪場がないため、高校に通う皆さんをお父さん、お母さんが勤めに行く前に送り迎えをやっている。

子供は柳津町の財産だとよく言うが、高校生くらいまではちゃんと面倒見るべきではないか。駐輪場の整備について見解を伺う。

**A** (地域振興課長) 駅の保存と利活用という形でJRと今、協議しているが、駐輪場は、その利活用と併せて、JRとも協議、また観光の関係各位とも業者さんとも協議して進めていきたいと思っている。



JR会津柳津駅



8番 齋藤正志議員

## ○旧西山中校舎の 施設統合後の利活用

地域住民に喜ばれる  
施設に！

**Q** 旧西山中の校舎には、西山支所、西山診療所、西山保育所の移設、さらにJA機能の一部参画を促しており、また、図書室や炊事のできる施設等、さまざまな機能が備わるようである。地域住民にとって、できてよかったと思われる施設になることが一番望ましい。そこで次の2点について伺う。

**①** 地域住民の希望が強い福祉施設の整備促進については、具体的に考えはあるのか。  
**②** にぎわいを出すため、また、交流人口を増やすための活用術は考えているのか。

**A** (町長) ①福祉施設については、通所介護(デイサービス)用途として確保できることは確認したが、民間事業者等のスタッフ不足等の要因によって今回の計画で断念した。

**②** 今回、整備する複合公共施設は、多くの方々が自由に利用できる多目的ホール、作業スペース、談話室等を新たに設け、老若男女が自由に利活用できるように整備をしたと考えている。

まずは西山地域の拠点的作用、町民向けの多目的スペースの利活用やアイデアの募集等しながら、地域内外の利用者を増やすことにより西山地域ににぎわいをもたらすような活動の実施をしていきたいと考えている。

**Q** 施設を造るに当たり、地元のアナケート調査をした。圧倒的に多かったのは、福祉施設の設置を求める声だった。

通所介護、いわゆるデイサービスは用途として確保できることは確認したというが、これはどのように、どこまで検討したか伺う。

**A** (副町長) デイサービス等について町で試算すると、面的には充分に合うと思っている。福祉施設の事業者と話をしたところ、施設の職員については手当ができないという回答があった。

それと、西山での利用者の人数を見ると、夏はよいが、冬期間はどうしても赤字になる可能性が高いということ、二の足を踏んでいるのが現実である。

**Q** 例えば入浴サービスなしでやるとなると単価が変わってくるので事業者も二の足を踏む。

入浴施設を町で造って、そこに事業者を持ってくるほうが現実的ではないか。  
できれば介護職員を地元から採用してもらって、施設がある以上、企業を誘致することとは可能ではないか。

**A** (副町長) アナケートで要望が多かったもので、町としても考えていかなければならないが、今の段階では、3施設の4つの機能での事業を展開しているので、その事業を見守りながら、今後町のほうで検討させていきたい。

**Q** 西山地域に地域おこし協力隊を呼び、そばを出したり、何か工芸品等を作ったり、若い人が来て、こんなことやってるよって情報を発信したら、若い人も増えるし、情報も発信できる。

町のためだったら、あそこが好きなのとやっこいいぞと。若い人たちとそういった情報発信を地域からやっつけていけば、本当に西山地域にもものすごく光が当たってくるんじゃないかと思うがどうか。地域おこ

し協力隊を配置するという考えはないか。

**A** (地域振興課長) 町への配置ではなくて地区へ配置という形の地域おこし協力隊の募集方法もあるので、その利活用で、地域おこし協力隊を募集して運営とか企画をやっていたらいいということはあると思う。



旧西山中学校校舎



所感

柳津町でも議会改革をさらに推し進める必要があり、大いに参考にしたい。

両町とも地域課題の取り上げと住民の要望を町政にどう反映させていくかが大きな課題である。

今後、各常任委員会ごとの代表質問の実現を模索していきたい。第三者審議会の設置など、公開性と透明性を意識した議会活動が求められるのではないか。

## バイオガスプラント

鹿追町では、家畜ふん尿・生ゴミ等を嫌気性発酵させ、メタンガスを生成し、燃焼させて発電しエネルギー生産をしている。生物由来資源（バイオマス）であるためカーボンニュートラル（元々植物が光合成で大気中から取り込んだCO<sub>2</sub>が戻るだけなので燃やしてもCO<sub>2</sub>を増やさない）といわれる。

バイオガスプラントは平成19年9月から稼働し、国内最大級の2基目の集中型バイオガスプラント（250kW発電機4基）も稼働している。嫌気性発酵後の消化液から有機質肥料を年間約3万トン生産。発電で発生した余剰熱を利用する取り組みとして、チョウザメの試験飼育、サツマイモの貯蔵（13℃～15℃）、マンゴーの試験栽培も行っている。また、バイオガスからの水素製造（水素サプライチェーン実証事業）も行っている。

## とかち鹿追ジオパーク

ジオパークとは、「地球・大地（ジオ）」と「公園（パーク）」とを組み合わせた言葉で、「大地の公園」を意味する。

とかち鹿追ジオパークは、火山と凍れ（しばれ）という特色ある自然環境と人の営みをさらに結びつけ発展させる目的をもって、平成25年12月に日本ジオパークに認定された。

4年ごとに再認定があり、アクションプラン、情報発信、ガイドの活用、拠点施設、インフォメーション機能、ジオガール・ジオ応援隊、道内ジオパークとの連携など見直しを進め、再認定に向けて始動している。

所感

バイオガスプラントとジオパークについては、専門職員の熱意は十分伝わった。柳津町で取り組むには無理があるように思う。

## 鹿追町の小中高一貫教育の概要

鹿追町は昭和60年にカナダのアルバータ州ストニープレイン町と姉妹提携をして以来、留学生・友好訪問団の国際交流事業が続いている。

平成14年に文部科学省の「連携型中高一貫教育推進校」に指定され、小中高の全8校で一貫した英語教育を「カナダ学」として開始。平成27年には、英語教育を「地球コミュニケーション」とし、環境教育を「新地球学」として実施。平成29年度までで研究開発事業の指定終了。

平成30年に一貫型のコミュニティースクールを導入。

所感

英語教育の重要性について改めて思い知らされた。

小学校からの英語が教科となり全国で取り組むことになったが、我が町でも将来小中高一貫教育を目指すことが明記されているからには、英語教育にも力を入れる必要があると思う。



# 議会行政視察

令和元年6月25日～28日までの3日間、北海道遠別町他において行政視察を行ってきました。

## 視察先：北海道遠別町



遠別町		柳津町
2,663人	人口(令和元年4月1日)	3,339人
590.86km <sup>2</sup>	面積	175.82km <sup>2</sup>
37.90%	高齢化率(平成27年国調)	41.30%
いきいきと里仕夢あふれるまち	キャッチフレーズ	いで湯と信仰とスポーツの里

## 遠別農業高校

遠別農業高校は羊（サフォーク種）を飼育、食品加工を行っている。平成26年に「ラム肉セット」が「ふるさと納税」の返礼品に採用されたことで納税額が増え、メディアに取り上げられ、ラム肉の生産・加工を専門的に学べる場は全国的に珍しいことが知られて入学志望者が増加した。

### 所感

羊毛ではなく、ラム肉に目を向け、さらに6次化にも取り組んでいるのは、公立の高校としては希有なことだと思う。

柳津町でも農産物の6次化製品等を返礼品に加えることなどで、ふるさと納税額の増加につながる対策を考えるべきだと痛感した。議会や農業団体等と連携した体制をとり、特色ある返礼品の導入により、納税額の増加につながることを期待したい。



## 視察先：北海道鹿追町

鹿追町		柳津町
5,295人	人口(令和元年4月1日)	3,339人
404.70km <sup>2</sup>	面積	175.82km <sup>2</sup>
28.27%	高齢化率(平成27年国調)	41.30%
生きて生きるまちに	キャッチフレーズ	いで湯と信仰とスポーツの里



## 議会改革の取り組みと課題

鹿追町は議会改革が進んでいる町として有名であり、様々な取組を行っている。

- ① まちなか議会（多様な方式で、議員が出向き意見を引き出すことに主眼を置く）
- ② サンデー議会・ナイター議会（平成19年から開催、傍聴の機会と身近な議会をつくる）
- ③ 反問権・反論権（町長が必要な範囲での反問、根拠が明確でない場合の反論をルール化）
- ④ 広報広聴委員会の設置（町民への広報と広聴を重要活動とし、広聴機能を加え常任委員会化した）
- ⑤ 議会アドバイザーの設置（専門的な知識を有する者からの助言を求める制度、平成28年から委嘱）
- ⑥ 常任委員会による代表質問（条例に追加し、委員会の総意として代表質問を可能とした）

7月16日（火）午前10時より、令和元年柳津町中学生議会が開催されました。

会津柳津学園中学校3年生の議員19名が議員席に座り、町長や課長の出席のもと、中学生議会が開会しました。自己紹介の後、7名の議員が、普段から感じている疑問や柳津町をより魅力ある町にするための提案について、一般質問を行いました。会津柳津学園中学校2年生ほか、傍聴者もいましたが、緊張しながらもしっかりと自分達の意見を町に伝えられました。質問内容も、産業振興、防災対策、観光振興、空き家対策、雇用対策など、とても良い質問でした。



最初は緊張しました。

議長を務めた、井関俊介君。

No.	件名	質問者
1	農業について	いのまた ゆうま
		猪俣 悠真
2	防災対策について	さいとう あぎと
		齋藤 輝飛
3	柳津温泉スキー場について	たさき いお
		田崎 偉央
4	柳津町の活性化について	どぼし さき
		土橋 咲希
5	空き家対策について	にいだ なつき
		新井田 夏希
6	雇用促進について	はせがわ ひまり
		長谷川 陽莉
7	柳津西山地熱発電所の2次活用について	きくち こうたろう
		菊地 晃太郎

『一般質問 一覧』

このような機会は一生のうち  
にあまりない機会なので、  
いい経験になったと思います。

議会は町のために、  
本気で考える場なんだな  
と思いました。

町では、いろいろな  
対策や計画を立てている  
ことや、それを実現するに  
は、費用やいろいろな問題  
があり難しいことが  
分かりました。

## 中学生議会 感想



議員さんたちは  
本当に大変だなと  
思い、特に町長さんは  
冷静に僕たちの質問に  
答弁していて  
すごいなと思いました。

今回の議会を  
通して、人前で  
堂々と話せるように  
なりたいと思う。

ここで中学生が提案  
したことを実際に取り  
組んでほしいと思います。  
そしてもっといい柳津町  
になってほしいです。

もっと柳津町に興味を持ち、柳津町  
の課題を解決するために私たちが  
できることをしていきたいと思った。

次は、今の2年生に私たちよりも、  
もっと良い質問をしてもらって  
中学生議会を成功させてもらいたい  
と思いました。

## Q 農業について

柳津町は農業の町でもあるが、近年、田んぼが荒れ地になっていたり、農村では空き家が増えていたり、心配な面もある。そこで、他の市町村や東京などの都会から、人を呼び寄せ農業体験をしてもらおうと、農業への関心が高まり、活性化できると考える。また、来た人を農家に泊めて、「田舎体験」のような形の取り組みをしていくと、柳津町に住みたいと考える人も多くなっていくのではないかと。この取り組みは過疎化対策にもつながる。町としてどのような考えを持っているのか伺う。



2番  
猪俣悠真 議員

**A** 農業体験や田舎体験としては、現在、久保田地区グリーンツーリズムとして、棚田を利用した農業体験や地元の農家との交流を、東京都などの都市部の方を対象として10年以上続けている。また、町内には農業体験ができる農家民宿が2軒あるので、民宿を利用した取り組みなども今後考えていきたい。

現在、カスミ草の栽培が盛んな地区があり、今後も栽培される方が増え、栽培面積が増えていけば利用されていない田んぼも減っていく、また新しく栽培をはじめの方に地域に住んでいただければ、農村の空き家の利活用もできると考えている。町としても、現在、国の地域おこし協力隊制度を利用して、首都圏等の都市部から農業に従事していただける方を募集しているので、カスミ草栽培も積極的にPRしていきたい。



5番  
齋藤輝飛 議員

## Q 防災対策について

只見川沿いに見る景色や、川下りなどは、町の大きな観光資源となっている。一方で平成23年7月に起こった豪雨災害での洪水など、只見川は時として、私たちの命を脅かすこともある。災害が起きないように整備をするということも大切だと思う。そこで、河川の増水や道路や農地、建物などを洪水から守るために、町としてどのような対策を行っているのか。また、只見川の整備計画が平成28年度より只見町で工事に着手したとのことだが、現在の工事の状況はどうなっているのか。

**A** 河川の増水や洪水から町を守るための対策として、平成23年7月の新潟・福島豪雨災害後すぐに大型の排水ポンプを導入したほか、昨年度は、河川の状況を常時確認できる監視カメラを3箇所を設置した。また、町地域防災計画に基づき、災害が予想される際には、防災対策本部を設置し、災害を未然に防ぐためのパトロールの実施、万が一に備える体制を整えるとともに、毎年、防災訓練を実施している。さらに、只見川の増水時に川からの逆流を防ぐ水門の動作確認を毎月実施し、県に報告している。

次に、只見川周辺の河川整備工事の状況は、柳津地区では、昨年度に引き続き銀山川の両岸で堤防が無い箇所には新たに堤防を造っており、高さが足りないと思われる堤防には、堤防を高くする工事を実施している。また、小椿地区と細八地区では、川の底に溜まった土砂を掘り起し撤去する計画を作成する予定である。

## Q 柳津温泉スキー場について

旧柳津温泉スキー場は、休止後、施設もそのままの状態となっている。今後、どのように活用していく考えか。例えば跡地に花を植えたり、展望台やアスレチックなどの施設を作ったりすると、有効に利用できると考える。昨年度も同じ質問があったと思うが、その後、町としてどのような計画を立てているのか見解を伺う。



10番  
田崎偉央 議員

**A** 町営スキー場の今後の利活用は、現在、土地の所有者の皆さんと話し合いを進めている。まず今年度スキー場に行く道路を整備して、来年度に古くなって使えない施設の撤去を行う予定。その後、跡地の利活用を図っていく考えである。

スキー場の跡地には花の咲く木や花を植えていきたいと考えており、ユキツバキの群生地を復活させることも考えている。また、子供から大人まで集まる憩いの場をしたいと考えており、町の木材など地域の資源を利用した展望施設やフォトスポットの整備、さらには小動物と触れ合える場所の整備などを考えている。今後、土地の所有者の方や観光協会、商工会、町役場などのメンバーでプロジェクトチームを立ち上げ、跡地の利活用について協議を行っていきたい。さらに今年度、中学生の皆さんや町民の皆さんから利活用についての意見を聞くため、アンケートを実施する予定。その結果、より良い提案があれば採用していきたい。

## Q 町の活性化について

柳津町をPRするために、ゴールデンウィーク中や夏休み中にタピオカやチーズドッグなど、今現在流行っているものを集めたイベントを開催するのはどうか。

もう一つは、町内を散策するために、自転車を観光客むけに貸し出すというのはどうか。自動車だと行きにくいところまで、自転車では行けるので、柳津の良さがさらに伝わると思う。町の見解を伺う。



11番  
土橋咲希 議員

**A** 一つ目について、イベントをすぐに開催するのは難しいことから、現在町で行われている花火大会や赤べこまつり、冬まつりなどの中で流行っているものを販売していただける方を募集していきたい。今年度「丑寅まつり」の実行委員会が作られる予定なので、実行委員会の中で、提案の流行っているものを集めたイベントの開催についても話し合っていきたい。

二つ目について、自転車を活用した観光地めぐりは、車で走っては見られないような景色を見ることができるとメリットが考えられる。当町は坂道が多いことから、その対策や自転車専用道の設置など、安全性の確保や自転車の回収方法や維持管理など多くの課題があるので、町内の観光関係者の皆さんと協議していきたい。



12番  
新井田夏希 議員

## Q 空き家対策について

空き家は平成30年度の調査によると、町内に137戸ほどある。空き家をそのままにしておくと、生活環境の悪化や防災上の問題も出てくると思う。

そこで提案だが、使用可能な空き家を利用して商店を設置したり、田舎暮らしをしたい人向けに空き家を安く提供したりするなどをしてみてもどうか。

また、子供が遊具などで遊べる施設をつくることもできると思う。町の見解を伺う。

**A** 空き家を利用して商店を設置したり、田舎暮らしをしたい人向けに空き家を安く提供してはどうかとの提案だが、町が空き家を改修し、必要とする方へ安く提供するためには、町として中立性、公平性を確保するためにも、利活用の目的をはっきりさせた上で、事業を行う必要があるため、今後検討が必要になってくる。

次に、子どもが遊具などで遊べる施設を造ることだが、施設を造るには、人が住んでいなくても、家や家が建っていたところには持ち主がいる。町は、まず、その持ち主から承諾を得なければならない。それから、多く利用してもらうために、子供たちや地区の方たちがどんなものを必要としているか話し合うことで、公園や遊べる施設をつくることは可能であると考えます。

## Q 雇用促進について

柳津町には仕事をする場が少なく、人口減少の一つの要因ともなっていると思う。町の人たちの雇用を促進するために、企業の誘致や商業施設の誘致は考えているか。町の見解を伺う。

**A** 町が今まで雇用を促進するために取り組んだ事業としては、工業団地の造成や介護施設の誘致などが挙げられる。また昨年度は、養豚施設として新たにグローバルピッグファームが造られ仕事を始めている。

しかし、工業団地の事業所では、町内からの従業員が集まらず、町外から従業員を雇っているなど、雇用の場はあっても町民の方に働いてもらえない現状があるので、企業誘致を進めていく上で、町民の皆さんがどのような種類の仕事を求めているのかなどを考えながら進めていかなければならないと思っている。

現在、企業を誘致する候補地を探しているが、町には交通の便がよいまとまった平らな土地が少なく、あっても農業が行われていたり、主要道から離れていたり、候補地を選ぶのに苦労している。

また、商業施設の誘致は、現在のところ考えていない。

今後、大きな企業の誘致のみでなく、町が持っている土地や町内の空き家などを利活用した、小規模な企業や事業所の誘致も考えながら進めていかなければならないと考えている。



14番  
長谷川陽莉 議員

## Q 地熱発電の二次的利用について

西山地区には日本の地熱発電所としては、かつて最大出力を誇っていた柳津西山地熱発電所があり、町の大きな財産となっている。

そこで、地熱発電の二次的利用として何か作物を栽培するような計画はあるか。

土湯温泉16号源泉バイナリー発電所では、冷却に使った排水を利用して、オニテナガエビの養殖をしたり、各種温泉施設などへの提供や釣り堀の整備などが見込まれているそうである。町の見解を伺う。

**A** 地熱の二次利用については、国の補助金を活用して、熱水を有効利用したフグやナマズの養殖や花などの園芸作物栽培の可能性を考えて調査を行い、地熱の二次利用に関心のある方を募集し、検討を行ってきた。

貴重な自然エネルギーを活用し町の活性化に結び付けていくことは大変有効であるが、地熱の二次利用は、施設の設備面で高額となることや栽培可能な農作物の選択が難しいなど、事業の実施に当たっては課題が多い。

現在、検討を行っているワーキンググループでは、地中熱利用などの再生可能エネルギー事業に対する国の補助金を活用して事業を実施できないか協議を進めているが、併せて引き続き地熱発電の地熱の二次利用の可能性についても協議を進めていきたいと考えている。



19番  
菊地晃太郎 議員

## 中学生議会を動画で

中学生議会の様子を町のホームページで閲覧することができます。

柳津町  
ホームページ

柳津町議会

中学生議会  
録画映像

スマホやタブレット端末からも、  
見ることができます！



中学生議員の質問が  
見られます。



